

新しいことに挑戦するDNAをもつシチズン 100周年を迎え、新たな一步を踏み出した

戸倉社長に今後の展開について話を聞いた

日本に近代時計産業が芽生え始めたばかりの明治・大正期。時計王国のスイスやアメリカに学んだ時計金属商・山崎龜吉(やまざきかめきち)が、「懐中時計を国産化したい」との決意を抱いて帰国し、1918年に尚工舎時計研究所(現・シチズン時計)を設立した。

以後100年にわたり、シチズングループは自ら道を切り拓きながら精密な技術を磨き、先進のものづくりに挑戦し続けている。

変革期を迎えた2007年以降は、2008年の米国老舗時計会社の株式取得をはじめ、世界初の人工衛星から時刻情報を受信する光発電時計「エコ・ドライブサテライトウェーブ」を2011年に発表、2012年にはスイス高級機械式時計メーカーを傘下に持つ企業の株式取得し、2016年にはスイス高級腕時計メーカーグループ企業の株式取得と相次ぎ、同年に「グループ成長の核」である時計事業を営む事業持株会社へ移行し、「シチズン時計株式会社」に商号を変更した。

そして、創業100周年を迎えた2018年は、創業当時から「人々に時間を伝える時計は正確でなければならない」という変わらぬ想いと共に、時計の精度を追求する時計メーカーの使命を具現化した、世界初の「年差±1.0秒」という超高精度光発電エコ・ドライブムーブメントCalibre0100を発表した。

シチズンウォッチグループは、過去・現在・未来を称えることで新たな一步を踏み出し、時計の世界において新しい風を巻き起こすシチズンウォッチグループの更なる進化に期待が寄せられている。

そこで改めて、これから100周年をシチズンウォッチグループがどのような視点でグローバル展開を図り、国内市場をどのように捉え、そして今後も期待されている世界初の商品をどのように生み出していくのか、シチズン時計代表取締役社長の戸倉敏夫氏に話を聞いた。

100周年を迎え、新たな一步を踏み出したと思いますが、これからの販売体制などにおける今後の方向性をお聞かせください

消費者の嗜好に対応するため、シチズンブランドを中心とした、マルチブランドでの展開を進めてまいりました。2008年にはアメリカのプロバ社、2012年には、アーノルド&サンを保有するスイスのプロサー社、2016年にはスイスのフレデリック・コンスタント社を買収し、カジュアルなファッションウォッチから、複雑機能を搭載した機械式時計まで、幅広いお客様に対応できるようになりました。米国では各ブランドの販売体制の統合を行い、成果も出てきています。今後は米国以外でも販売体制の統合を行い、シナジー(相乗効果)を出していきます。合わせて、セグメンテーション戦略を推進しております。百貨店、専門店、Eコマース等、各流通に応じて、消費者が本当に望む商品を提供していくことが重要と考えております

戸倉社長「今年度は2013年度より進めてきた6カ年の中期経営計画『シチズン・グローバルプラン2018』の最終年度です。中期経営計画では、多様化

米国市場は好調に推移しているようですが、国内市場の現状とこれからの



「創業100周年記念ロゴマーク」には、100周年を新たな出発点として、輝きを放ち進化し続けることを目指す想いが込められている

課題についてお聞かせください

戸倉社長「昨年度の国内市場は、全体としてはスローな動きながら、高価品が比較的堅調に推移しており、製品ミックスとしてはポジティブな状況となっております。また、いわゆる『爆買い』の反動で落ち込んでいたインバウンド需要についても、昨年度は安定して推移いたしました。あとは、ボリュームゾーンである中価格帯の回復に向けた取り組みが課題となります」

その中で、売上が伸びているモデルや、金額帯はいかがですか

戸倉社長「現状伸びているカテゴリーで言えば、エコ・ドライブワンやカンパノラ等で、価格帯では40万円前後の高額品が比較的堅調です」

では逆に、これから伸ばしたい商品や価格帯を教えてください

戸倉社長「これから伸ばしたいのは、主力の中価格帯です。その為に、セグメンテーション戦略を行い、市場ニーズを流通レベルまで細分化し、把握することで多様化する消費者ニーズに対応してまいります。また、今年度は広告宣伝費を増加し、トップラインを上げることに注力します」

AI時代に突入し、IT技術があらゆるツールとして活用され始めていますが、時計産業においては、どのような変化が生まれていますか

戸倉社長「今、時計業界は大変大きな変革期の渦中にあります。それはスマートウォッチに見られるように、時計と言う製品そのものにも変化をもたらしています。ま

社員自らの意思で社会貢献 「シチズン社会貢献活動派遣制度」

「シチズン社会貢献活動派遣制度」は、シチズングループの社員が国内外の各所に赴き、その地域における社会課題と向き合い支援活動を行う。シチズングループでは、企業は人であるという考えのもと、これまでも社員に様々な成長の機会を提供してきた。また皆に愛される製品やサー

ビスを生み出していくには、社会や世界を知り、視野を広げ、学んだことを生かし、新たな価値観を取り入れて組織を活性化することが重要だと考え、社員の国際機関への出向や、グループ企業への派遣も行っている。同派遣制度もこうした考えのもと、シチズングループが次の100年も社会に貢献し続けるために、毎年継続する。



Calibre0100



カンパノラ



エコ・ドライブワン

た、流通現場でもネット販売が伸びている一方、実店舗販売が苦戦する傾向にあります。そして、生産現場でも、IoTやAIを活用した新しい生産方式がどんどん現れています。こういったことが、我々の社会生活にも変化をもたらし、そしてそれが時計そのものの価値にまで変化を及ぼしており、その変化のスピードは想定以上に早いと思っています。今年、創業100周年という節目に、自分たちの作る時計の本質とは何かと考え、「精度への挑戦」という原点を突き詰めてみようという取り組みを、3月に開催されたBaselworld2018で、「年差±1.0秒」のエコ・ドライブムーブ

メント「Calibre0100」を発表しました。また、全国5カ所で開催された100周年記念イベントには想定以上のお客様にご来場いただきました。時計を気軽に身につけていただき、時計の魅力を伝える活動・場所を今後も増やしていきたい」

それでは最後に、新たな100年に向けた戸倉社長の時計づくりへの想いをお聞かせください

戸倉社長「世の中の変化は激しく、将来を見通すのは難しい。当然、時計の姿も変わる。しかし、時間そのものがあることは変わらない。これまでも多くの世界初の製品を発売してきており、新しいことに挑戦するDNAが当社にはある。今後も「時」や「美しさ」といった時計の本質を追求し、腕時計を持つ魅力を伝えられるような、喜びや高揚感を与える製品を作り続けていきたい」

戸倉社長、ありがとうございました。

LOVEMARK * DIAMOND

LIFETIME COLLECTION

FOR THE LIFE WE LIVE, FOR THE MOMENT WE TREASURE FOREVER.

www.lovemarkdia.com

始めるなら堅実に。石福プラチナ&純金積立。

石福金属興業株式会社 0120-313-041

株式会社 水 溪

MIZUKEI

Viva La Vida, Bella Figura

株式会社 水 溪

本 社：〒460-0008 名古屋市中区栄3-27-25 ミズケイビル TEL. 052-261-2641 FAX. 052-261-7093

関西支社：〒542-0081 大阪市中央区南船場3-6-3 南船場DSビル TEL. 06-6245-6556 FAX. 06-6245-6557

東京支社：〒110-0005 東京都台東区上野3-17-11 コーワビル2 TEL. 03-3836-0541 FAX. 03-3836-0754

http://www.mizukei.co.jp

暑中お見舞い申し上げます

私たち中央宝石研究所(CGL)の創業は1970年。以来、宝石と共に磨かれ、今や国内最大規模のラボラトリーを有するまでに成長を遂げました。最新鋭分析機器による宝石の研究、宝石を知り尽くした専門家による鑑別書、ならびにダイヤモンドのグレーディングレポートの提供。また教育プログラムや書籍発行による情報発信。これまでも、そしてこれからも・・・宝石にかけた思いを新しいロゴマークに込め、CGLはこれからも皆様とともに成長してまいります。

株式会社 中央宝石研究所 (CGL)

東京都台東区上野 5-15-14 ミヤギビル http://www.cgl.co.jp

七宝の芸術「アール・エマーユ」

伝統工芸「平戸細工」

作者名 大谷 茂

ジュエリーコンテストで3度の大賞をはじめ数々の賞を受賞。「平戸細工」の数少ない継承者。東京都より優秀技能者(東京マイスター)の称号を授かる。

製造発売元 株式会社 英工芸

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-3-3 TEL.03-3822-2218 FAX.03-3822-0512